

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
大原簿記医療秘書 公務員専門学校町田校	平成8年10月8日	佐藤 顕	〒194-0022 東京都町田市森野1丁目9番21号 (電話) 042-728-7621																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 大原学園	昭和54年4月1日	中川 和久	〒101-0065 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
商業実務	商業実務専門課程	経理本科学科 情報処理コース	平成10年文部省 告示第179号	-																			
学科の目的	一般的に商業実務で必要とされる、会計知識、マーケティング知識、パソコンスキルなどを修得する。また、IT業界で必要となるプログラミング、パソコンのシステム構成に関連した知識・技能の修得を通じて、自立した社会人の育成を目的とする																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1,700	1,500	850	600	0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人	99人	3人	12人	0人	30人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 秀、優、良、可、不可の5種・定期試験																			
長期休み	■夏季:7月下旬～8月末日までの5週間 ■冬季:12月下旬～1月上旬 までの2週間 ■春季:3月下旬～4月上旬 までの2週間		卒業・進級 条件	卒業:規程する修業年限以上在学して、所定の授業時間数以上を履修し、かつ定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者 進級:定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者への連絡および通知		課外活動	■課外活動の種類 各種クラブ活動の大会参加、ボランティア活動																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 旭情報サービス(株)、(株)システナ、ジャパンシステム(株)、富士ソフト(株) ほか多数		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 就職担当者及び担任による全体レクチャーと個別面接トレーニングの実施(自己分析・面接試験対策)、内定後教育(PCP教育)を実施			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>33人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>MOS(PowerPoint)</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>日商簿記1級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	33人	26人	MOS(PowerPoint)	③	13人	12人	日商簿記1級	③	1人	1人
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																		
	ITパスポート	③		33人	26人																		
MOS(PowerPoint)	③	13人	12人																				
日商簿記1級	③	1人	1人																				
■卒業生数 38 人 ■就職希望者数 29 人 ■就職者数 27 人 ■就職率 93.1 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 71.1 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■その他 ・アルバイト: 6人 ・大学進学: 1人 ・その他: 2人		■自由記述欄 なし																					
(令和 2 年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 9 名 令和2年4月1日時点において、在学者99名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者90名(令和3年3月31日卒業者を含む)		■中退率 9.1 %																				
■中途退学の主な理由 学習意欲喪失、体調不良		■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談(本人及び保護者)																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有																						
1. 大原学園奨学金制度 経済的要件として、以下①～③のいずれかに該当する方 ①生活保護法による保護費を受給されている世帯の学生 ②個人住民税(市区町村民税及び都道府県民税)所得割が非課税の世帯の学生 ③保護者等の倒産、失職等により家計の急変した世帯の学生 奨学金: 20万円		2. 試験による特別奨学生制度 試験による特別奨学生制度を実施。試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除する。					3. クラブ活動による特別奨学生制度 資格・クラブ活動による特別奨学生制度を実施。入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定、ランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除す																
■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	http://www.o-hara.ac.jp/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である一般事業会社と連携して教育課程の編成を行い専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②一般事業会社就職志望者にとって必要な会計知識、計数能力、パソコンスキルの他、実務において重要度が上がっている、マーケティング知識、システム操作、キャッシュ管理等にも教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を取り入れ、授業に反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、教育の質向上、学生の視野を広げるための機会を増やす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ①位置づけについて
教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。
- ②意思決定の過程について
(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務本部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 顕	大原学園町田校 校長		
穂積 浩之	大原学園町田校 教務部 部長		
塚本 浩二	大原学園町田校 総務課 課長		
五十子 桂祐	町田市医師会 理事 町田病院 院長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	②
太田 耕平	町田市役所 政策経営部経営改革室 担当係長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	①
加藤 康弘	横浜総務サポートセンター 所長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	①
金澤 貴之	株式会社ベガシステム 取締役 企画斐発部 部門長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③
廣田 利久	エクセルコンピュータサービス株式会社 執行役員 ITシステム事業部 事業部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③
藤沢 秀子	医療法人社団 三友会 あけぼの病院 理事 あけぼのクリニック 副院長兼看護部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	②
三宅 真弥	T&A税理士法人 所長(税理士)	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③
望月 康博	株式会社クリエイトエスディー 人事本部採用教育課 課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③
八木 満	町田商工会議所 総務部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	①
山田 麻美	山田麻美税理士事務所 所長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

令和2年度 第1回 令和2年8月26日 15:00～16:30

令和2年度 第2回 令和3年3月17日 15:00～16:30

令和3年度 第1回 令和3年8月24日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

各委員会では以下の意見を頂き、授業カリキュラムに反映させている。

<第一回>

経理系:状況別の言葉遣い、敬語の再確認が必要になる。また、会計ソフトの基本的な取り扱いを学習して欲しい。

販売系:リテールマーケティングの学習を通して、検定試験対策だけではなく販売接客職で求められる役割の理解を深めて欲しい。

情報系:コロナ感染症による待機SEが多かった。IT業界の状況を理解すると共にグループウェアの活用方法を習得して欲しい。

医療系:コロナ感染症のリスクについて、自覚が足りない病院職員が見られる。病院実習前の研修で医療現場の実情を伝えて欲しい。

<第二回>

経理系:時代の変化に対応するため、オンラインに関する知識(Zoom、Teams)を増やして欲しい。

販売系:販売実習の代替として、校内でのイベント、行事、研修などを活用しながら協調性を養って欲しい。

情報系:サーバー構築はクラウドを利用するのが主流となっている。現行の構築方法と並行しながら学習して欲しい。

医療系:診療加算の医療用語が理解できず、拾えない事例が多い。漢字変換が分からず手を止めてしまうことのないよう指導をお願いしたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 ① 商業実務分野における実習・演習は、教育社会福祉分野や工業分野と異なり、企業等との連携の下で行われる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組み立てを行う。
 ② 企業等との連携による実習・演習を通じ、学生のより実践的な知識・思考・技術の習得と社会人としての意識改革を実現する。
 ③ 企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぐ。また、学生の知識・技術の習得状況に対して、実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 学外実習、マーケティング研究、プログラミング言語論、システム開発演習、システム設計演習、病院実習、経理事務総合の授業運営において、企業との協定書等を締結し連携している。実習授業においては、情報収集や企画立案を行い、コンテストを通じて最終的な評価をしていただく。結果に対しては、アンケート及び口頭でアドバイスをいただき、知識・技術について校内での指導・教育に反映させている。学習成果の評価が適性にできるよう各企業と連携し、研修も実施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
マーケティング研究	マーケティングに関する知識について、実践を通して形にしていこうとすることを目的としている。各分析手法を用い、企画立案までの過程を学ぶ。	イオンリテール株式会社
卒業研究	マーケティング研究で身に付けた基礎知識について、より実践的に習得することを目的としている。実在する店舗のエリアマーケティングを展開し、実現可能性も踏まえてプレゼンテーションを行う。	イオンリテール株式会社
システム開発演習	実務で必要とされるシステム設計の知識習得を目的としている。システム化提案のため、システム構築及びドキュメント作成を学ぶ。	ジャパンシステム株式会社
病院実習Ⅰ	現場での実習を通じ、医療事務の業務内容を理解することを目的としている。就職活動を控えている学生も多くおり、職業観も養っていく。	横浜総合病院 東名厚木病院 他
病院実習Ⅱ	現場での実習を通じ、医療事務の業務内容について理解を深める。また、事務員としての業務把握、患者対応だけでなく、他部署や他専門職との関わりを学びながら、入社後の準備を行う。	聖マリアンナ医科大学病院 北里大学病院 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 専門的かつ実践的な知識・技能を有し、即戦力となる人材を育成するために、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。そのために、教職員研修の環境を整える。具体的には「大原学園町田校教職員研修規定」に従い、専攻分野の知識・技能等を向上させる環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、研修等、受講機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記の通り。
 ① 教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
 ② 大学教授等専門分野に特化した講師を招いた研修会の実施
 ③ 学内に設置される付帯教育講座を利用しての自己啓発と促進
 また、教職員を対象とした一斉テストや授業録画を実施し教員の自己啓発促進と正しい評価に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「2021年度 担当初任者地方研究会」（連携企業等：公益財団法人 実務技能検定協会 秘書サービス接遇教育学会）
 期間：令和2年10月10日（土）
 対象：専門課程担当職員
 内容：秘書検定についての概要、試験問題における事例研究を目的とした研修。出題数や出題範囲の確認と合格基準について学ぶとともに、ディスカッションでは選択問題の「適当な部分、不適当な部分」について意見交換を行った。

研修名「第30回 診療報酬請求事務研修会」（連携企業等：公益財団法人 日本医療保険事務協会）
 期間：令和2年10月16日（金）
 対象：専門課程担当職員
 内容：令和2年度の診療報酬改定の概要と請求事例を学ぶ研修。コロナ禍によるオンライン診療や遠隔診療等について、新設されている点数や基準・評価の見直しが行われているものを中心に講義形式で研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「アドラー式勇気づけコミュニケーション研修」（連携企業等：日本能率協会マネジメントセンター）
 期間：令和2年7月
 対象：専門課程担当職員
 内容：学生のモチベーション向上と職員の対学生対応力の向上を目的とした研修。アドラー心理学に裏打ちされた知識を学ぶとともに、応用力向上のためのテクニックをロールプレイング形式で研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「2021年度 担当初任者地方研究会」（連携企業等：公益財団法人 実務技能検定協会 秘書サービス接遇教育学会）
 期間：令和3年10月中旬（詳細日程は後日公開予定）
 対象：専門課程担当職員
 内容：秘書検定の講義や試験問題の研究を行う。検定主催団体も含めた全員でディスカッションを行いながら、筆記試験対策だけではなく、秘書検定における面接評価ポイントなども学ぶ。より実践的な知識習得が可能となっている。

研修名「第31回 診療報酬請求事務研修会」（連携企業等：公益財団法人 日本医療保険事務協会）
 期間：令和3年10月14日（木）、15日（金）
 対象：専門課程担当職員
 内容：診療報酬請求事務従事者の資質向上のための研修。診療報酬研究所や診療報酬支払基金の方を講師に招き、実務の側面から講義を展開していただく。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「S-MAX気づきの感度向上研修」(連携企業等：日本能率協会マネジメントセンター)

期間：令和3年7月31日(土)

対象：専門課程担当職員

内容：実際の学生面談映像やクラス内でのホームルーム映像を利用し、最適な学生とのかかわり方や指導方法を学ぶ研修。
実際の応対映像を扱うことにより、より現実近く反映性の高い研修としている。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会にあたり、卒業生の社会適応能力について多くの意見を頂いたため、コミュニケーション能力、組織への適応について、日々の学生指導においてこれまで以上に強く意識していくことを確認した。クラスでの担任の指導はもちろんのこと、全員参加の各種学校行事やクラブ活動を通じて、社会適応能力を高める環境を積極的に提供していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
安藤 肇	学校法人東海大学 東海大学医学部付属病院	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
大園 敏和	-	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	近隣住民
齋藤 弘樹	(株)クリエイティブジャパン	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
菅原 亮	私立 旭丘高校 進路指導部主任	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
出口 季円菜	-	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
松浦 千可子	私立 光明学園相模原高校 教頭	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL:<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和3年9月21日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先④学校の沿革
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL:<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 経理本科学科 : 情報処理コース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
		○	簿記入門Ⅰ	株式会社における複式簿記の基本原理を学ぶ	1・前	30	1	○	△		○		○		
		○	2級商業簿記基礎Ⅰ	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社会計の基礎を学ぶ	1・前	60	2	○	△		○		○		
		○	2級工業簿記基礎Ⅰ	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	1・前	60	2	○	△		○		○		
		○	2級簿記総合Ⅰ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ	1・前	90	3	△	○		○		○		
		○	3級商業簿記基礎	株式会社における複式簿記の基本原理、簿記の基本原理を学ぶ	1・前	90	3	○	△		○		○		
		○	3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ	1・前	120	4	△	○		○		○		
		○	ビジネス行動論	サービス・接遇の基本的知識を理解する	1・前	60	2	○	△		○		○		
		○	簿記初級Ⅰ	簿記の基本原理および企業の日常業務における実践的な簿記の知識を習得する	1・前	60	2	○	△		○		○		
		○	簿記初級Ⅱ	簿記の基本原理と合わせて企業の日常業務及び月次の集計業務における実践的な簿記の知識を習得する	1・前	30	1	○	△		○		○		
		○	原価計算初級Ⅰ	簿記の学習の有無を問わず原価計算の基本を学ぶ	1・前	60	2	○	△		○		○		
		○	原価計算初級Ⅱ	原価計算の基本原理および企業の日常業務における実践的な原価計算の知識を習得する	1・前	30	1	○	△		○		○		
		○	1級会計学入門Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1・前	90	3	○	△		○		○		

13			○	1級原価計算入門Ⅰ	伝統的な工業簿記および原価計算の基本的な内容を学ぶ	1・前	90	3	○	△		○	○				
14			○	2級商業簿記基礎Ⅱ	試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類の関連性について体系的に学び、財務報告書類の作成方法・株式会社会計を学ぶ	1・前	90	3	○	△		○	○				
15			○	2級工業簿記基礎Ⅱ	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	1・前	90	3	○	△		○	○				
16			○	1級会計学基礎Ⅰ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計の基礎について学ぶ	1・前	30	1	○	△		○	○				
17			○	1級原価計算基礎Ⅰ	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容を学ぶ	1・前	30	1	○	△		○	○				
18			○	2級商業簿記応用Ⅰ	商企業の会計処理に関する全体の関連性について体系的に学ぶ	1・前	30	1	○	△		○	○				
19			○	2級工業簿記応用Ⅰ	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	1・前	30	1	○	△		○	○				
20			○	1級会計学総合Ⅰ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	1・後	90	3	△	○		○	○				
21			○	1級原価計算総合Ⅰ	原価計算基準の理論体系、多様化する製造過程に対する会計処理、経営戦略について、より詳細に学ぶ	1・後	90	3	△	○		○	○				
22			○	2級簿記総合Ⅱ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学習し、総合問題の基礎も学ぶ	1・後	90	3	△	○		○	○				
23			○	2級簿記総合Ⅲ	株式会社の会計処理を問題演習、総合問題の演習を通じて学ぶ	1・後	90	3	△	○		○	○				
24			○	全経簿記上級総合Ⅱ	大企業を前提とした会計制度を学習し、複雑な会計処理をより詳細に学ぶ	1・後	120	4	△	○		○	○				
25			○	1級会計学入門Ⅱ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、基礎的な理論体系、現行基準との整合性を確認する	1・後	60	2	○	△		○	○				
26			○	1級原価計算入門Ⅱ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な内容から確認し、工業簿記および原価計算の関係性を学ぶ	1・後	60	2	○	△		○	○				
27	○			一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。	1・通	30	1	△	○		○	○				

28	○		ビジネス教養Ⅰ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。	1・通	30	1	△	○		○	○				
29	○		キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1・通	30	1	△	○		○	○				
30	○		コミュニケーション概論	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	1・前	30	1	○	△		○	○				
31		○	簿記論入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	30	1	○	△		○	○				
32		○	財務諸表論入門Ⅰ	会計学の概要入門を学ぶ	1・後	30	1	○	△		○	○				
33		○	消費税法入門Ⅰ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の考え方を学習する。	1・後	30	1	○	△		○	○				
34		○	相続税法入門Ⅰ	相続税および贈与税の概要入門を学ぶ	1・後	30	1	○	△		○	○				
35		○	法人税法入門Ⅰ	法人税法の計算体系の理解を目的とする。	1・後	30	1	○	△		○	○				
36		○	消費税法速習入門Ⅰ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の考え方を学習する。	1・後	30	1	○	△		○	○				
37		○	簿記論入門Ⅱ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	90	3	○	△		○	○				
38		○	財務諸表論入門Ⅱ	会計基準の入門概要を学ぶ	1・後	90	3	○	△		○	○				
39		○	消費税法入門Ⅱ	控除税額を中心とした考え方を学習する。	1・後	90	3	○	△		○	○				
40		旭 情報 サー	○	相続税法入門Ⅱ	相続税、贈与税の入門的な問題の理解	1・後	90	3	○	△		○	○			
41		○	○	法人税法入門Ⅱ	貸倒引当金の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	1・後	90	3	○	△		○	○			
42		○	○	消費税法速習基礎Ⅰ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした考え方を学習する。	1・後	30	1	○	△		○	○			

43			○ 簿記論基礎Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	120	4	○	△		○	○					
44			○ 財務諸表論基礎Ⅰ	金融商品取引法の概要入門を学ぶ	1・後	120	4	○	△		○	○					
45			○ 消費税法基礎Ⅰ	納税義務判定の特例や、仕入税額控除の特例などの考え方を学習する。	1・後	120	4	○	△		○	○					
46			○ 相続税法基礎Ⅰ	相続税、贈与税の入門的な知識を網羅し文章問題を解答する。	1・後	120	4	○	△		○	○					
47			○ 法人税法基礎Ⅰ	役員判定、役員給与を中心とした法人税法の体系を学ぶ。	1・後	120	4	○	△		○	○					
48			○ 簿記論基礎Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	120	4	○	△		○	○					
49			○ 財務諸表論基礎Ⅱ	会計学の入門・基礎を学ぶ	1・後	120	4	○	△		○	○					
50			○ 消費税法速習応用Ⅰ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例の考え方を学習する。	1・後	60	2	○	△		○	○					
51			○ 国税徴収法基礎Ⅰ	納税義務の確定から滞納までの流れを中心に学ぶ。	1・後	60	2	○	△		○	○					
52			○ ビジネス実務入門Ⅰ	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する。	1・後	30	1	△	○		○	○					○
53			○ ビジネス実務応用Ⅰ	職場でのマナー・技能を理解する。	1・後	60	2	△	○		○	○					○
54			○ 簿記論応用Ⅰ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	60	2	○	△		○	○					
55			○ 財務諸表論応用Ⅰ	会社法の概要入門を学ぶ	1・後	60	2	○	△		○	○					
56			○ 消費税法応用Ⅰ	軽減税率や複数税率などの考え方を学習する。	1・後	60	2	○	△		○	○					
57			○ 相続税法応用Ⅰ	相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学習をし、理解を深める。	1・後	60	2	○	△		○	○					

58			○ 法人税法応用Ⅰ	連結納税制度等の特殊項目の学習を進める。	1・後	60	2	○	△		○	○					
59			○ 簿記論総合Ⅰ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	1・後	180	6	○	△		○	○					
60			○ 財務諸表論総合Ⅰ	財務諸表作成の入門概要を学ぶ	1・後	180	6	○	△		○	○					
61			○ 消費税法総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ。	1・後	180	6	○	△		○	○					
62			○ 相続税法総合Ⅰ	相続税および贈与税の規定、申告について総合的に学ぶ	1・後	180	6	○	△		○	○					
63			○ 法人税法総合Ⅰ	法人税法の計算体系の知識習得を目的とする。	1・後	180	6	△	○		○	○					
64			○ 簿記論応用Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	60	2	△	○		○	○					
65			○ 財務諸表論応用Ⅱ	会社法の入門・基礎を学ぶ	1・後	60	2	△	○		○	○					
66			○ 簿記論総合Ⅱ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	1・後	180	6	○	△		○	○					
67			○ 財務諸表論総合Ⅱ	財務諸表作成の入門・基礎を学ぶ	1・後	180	6	○	△		○	○					
68			○ 消費税法速習総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ。	1・後	90	3	△	○		○	○					
69			○ 簿記論入門Ⅲ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1・後	30	1	○	△		○	○					
70			○ 財務諸表論入門Ⅲ	会計学の基礎を学ぶ	1・後	30	1	○	△		○	○					
71			○ 消費税法入門Ⅲ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の処理方法を学習する。	1・後	30	1	○	△		○	○					
72			○ 相続税法入門Ⅲ	相続税および贈与税の概要基礎を学ぶ	1・後	30	1	○	△		○	○					

73			○ 法人税法入門Ⅲ	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的とする。	1・後	30	1	○	△		○	○					
74			○ 消費税法速習入門Ⅱ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の処理方法を学習する。	1・後	30	1	○	△		○	○					
75			○ 情報処理基礎	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	1・前	120	4	○	△		○	○					
76			○ Power Point基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	1・前	60	2	○	△		○	○					
77			○ Power Point応用	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	1・前	30	1	△	○		○	○					
78			○ Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	1・後	60	2	○	△		○	○					
79			○ Word応用	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	1・後	30	1	△	○		○	○					
80			○ 経営管理入門	社会の基本的な成り立ちや考え方・専門用語を理解する	1・後	60	2	○	△		○	○					
81		○	ビジネス実務入門Ⅰ	働くうえで備えておくべき基本的な心構えや一般知識を理解する	1・後	30	1	△	○		○	○					○
82		○	ビジネス実務応用Ⅰ	職場でのマナー・技能を理解する	1・後	60	2	△	○		○	○					○
83		○	秘書検定総合	秘書としての考え方、職務知識、マナー・接遇について体系的に学ぶ	1・後	30	1	○	△		○	○					
84		○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	1・後	90	3	△	○		○	○					○
85		○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	1・後	90	3	△	○		○	○					○
86		○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用方法を習得する	1・後	60	2	○	△		○	○					
87		○	ネットビジネス基礎	ネットショップ事務の共通知識、制作・運用に必要な知識を理解する	1・後	60	2	○	△		○	○					

88			○	事務キャリアデザインⅠ	事務職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	1・前	30	1	△	○		○	○				
89			○	事務キャリアデザインⅡ	事務職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	1・後	30	1	△	○		○	○				
90			○	流通キャリアデザインⅠ	販売・接客・企画職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	1・前	30	1	△	○		○	○	○			
91			○	流通キャリアデザインⅡ	販売・接客・企画職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	1・後	30	1	△	○		○	○	○			
92			○	ITキャリアデザインⅠ	就職活動および就職試験の対策	1・前	30	1	○	△		○	○				
93			○	ITキャリアデザインⅡ	就職活動および就職試験の対策	1・後	90	3	○	△		○	○				
94			○	一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。	1・通	30	1	○	△		○	○				
95			○	IT基礎知識Ⅰ	IT基礎知識の学習：テクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系	1・前	90	3	○	△		○	○				
96			○	IT基礎知識Ⅱ	IT基礎知識の学習：テクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系	1・前	90	3	○	△		○	○				
97			○	IT基礎知識Ⅲ	IT基礎知識の学習：テクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系	1・前	90	3	○	△		○	○				
98			○	IT基礎知識Ⅳ	IT基礎知識の学習：テクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系	1・後	120	4	△	○		○	○				
99			○	コンピュータリテラシー	Officeソフト：Word、Excel、PowerPointの操作学習	1・前	30	1	○	△		○	○				
100			○	HTML/CSS	HTML／CSS	1・前	30	1	○	△		○	○				
101			○	JavaScript	JavaScript	1・前	60	2	○	△		○	○				
102			○	データベース	SQLの基本文法とリレーショナルデータベースの設計と実装	1・前	30	1	○	△		○	○				

103		○	Python	Pythonの基本文法とプログラムの実装	1・前	90	3	○	△		○	○	○
104		○	オブジェクト指向分析設計	ユースケース駆動設計によるオブジェクト指向分析・設計の実習	1・前	60	2	○	△		○	○	
105		○	アジャイルソフトウェア開発	アジャイルの概要とアジャイルを適用したユースケース駆動設計	1・前	30	1	○	△		○	○	
106		○	Java	Javaの基本文法とオブジェクト指向プログラミング	1・後	120	4	○	△		○	○	
107		○	PHP	PHP基本文法とサーバサイドアプリケーションの設計と実装	1・後	90	3	○	△		○	○	
108		○	フロントエンドフレームワーク	Vue.jsの基本文法とシングルページアプリケーションの作成	1・後	90	3	○	△		○	○	
109		○	サーバサイドフレームワーク	PHPサーバサイドフレームワークLaravelを使用したサーバサイドアプリケーションの作成	1・後	90	3	○	△		○	○	
110		○	ITパスポートⅠ	ITパスポート受験対策における基礎知識を学ぶ	1・前	90	3	△	○		○	○	
111		○	ITパスポートⅡ	ITパスポート受験対策における基礎知識を学ぶ	1・前	90	3	△	○		○	○	
112		○	MOS対策実習	MOS攻略問題集付属の模擬試験問題を使用したMOS検定試験対策を行う	1・後	90	3	△	○		○	○	
113		○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	1・前	60	2	○	△		○	○	
114		○	Excel基礎	PCの基礎操作並びにWordの応用的な操作を習得する	1・後	60	2	○	△		○	○	
115		○	ビジネス文書	wordを用いてビジネス文書の作成における基本を学ぶ	1・後	60	2	△	○		○	○	
116		○	キャンプ実習	事前講習、現場実技によるキャンプスキルの習得	1・後	30	1				○	○	○
117		○	スキー基礎技術論	現場実技によるスキースキルの習得	1・後	30	1				○	○	○

118		○	スノーボード基礎技術論	現場実技によるスノーボードスキルの習得	1・後	30	1				○		○	○	○
119		○	スポーツビジネスキャリアデザインⅠ	スポーツ系販売・接客・営業職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	1・通	30	1	△	○		○		○		
120		○	スポーツビジネスキャリアデザインⅡ	スポーツ系販売・接客・営業職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	1・通	30	1	△	○		○		○		
121		○	スポーツキャリアデザインⅠ	スポーツトレーナーやスポーツクラブインストラクターなどのスポーツ系の接客職内定へ向けた身だしなみ、敬語、筆記試験について学ぶ	1・通	30	1	△	○		○		○		
122		○	スポーツキャリアデザインⅡ	スポーツトレーナーやスポーツクラブインストラクターなどのスポーツ系の接客職内定へ向けた職種研究方法について学ぶ	2・通	30	1	△	○		○		○		
123		○	簿記論応用Ⅰ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2・前	60	2	○	△		○		○		
124		○	財務諸表論応用Ⅰ	会社法の概要入門を学ぶ	2・前	60	2	○	△		○		○		
125		○	消費税法応用Ⅰ	軽減税率や複数税率などの考え方を学習する。	2・前	60	2	○	△		○		○		
126		○	相続税法応用Ⅰ	相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学習をし、理解を深める	2・前	60	2	○	△		○		○		
127		○	法人税法応用Ⅰ	連結納税制度等の特殊項目の学習を進める。	2・前	60	2	○	△		○		○		
128		○	簿記論総合Ⅰ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	2・前	180	6	○	△		○		○		
129		○	財務諸表論総合Ⅰ	財務諸表作成の入門概要を学ぶ	2・前	180	6	○	△		○		○		
130		○	消費税法総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ。	2・前	180	6	○	△		○		○		
131		○	相続税法総合Ⅰ	相続税および贈与税の規定、申告について総合的に学ぶ	2・前	180	6	○	△		○		○		
132		○	法人税法総合Ⅰ	法人税法の計算体系の知識習得を目的とする。	2・前	180	6	○	△		○		○		

133			○ 簿記論応用Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2・前	60	2	○	△		○	○					
134			○ 財務諸表論応用Ⅱ	会社法の入門・基礎を学ぶ	2・前	60	2	○	△		○	○					
135			○ 簿記論総合Ⅱ	問題演習により効率的な得点ができるように、問題を解答する。	2・前	180	6	○	△		○	○					
136			○ 財務諸表論総合Ⅱ	財務諸表作成の入門・基礎を学ぶ	2・前	180	6	○	△		○	○					
137			○ 消費税法速習総合Ⅰ	確定申告書の納付税額算出までの基本的な流れを学ぶ。	2・前	90	3	○	△		○	○					
138			○ 簿記論入門Ⅲ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	2・前	30	1	○	△		○	○					
139			○ 財務諸表論入門Ⅲ	会計学の基礎を学ぶ	2・前	30	1	○	△		○	○					
140			○ 消費税法入門Ⅲ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の処理方法を学習する。	2・前	30	1	○	△		○	○					
141			○ 相続税法入門Ⅲ	相続税および贈与税の概要基礎を学ぶ	2・前	30	1	○	△		○	○					
142			○ 法人税法入門Ⅲ	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的とする。	2・前	30	1	○	△		○	○					
143			○ 消費税法速習入門Ⅱ	売上・仕入取引についての消費税の可否区分の処理方法を学習する。	2・前	30	1	○	△		○	○					
144			○ 簿記論基礎Ⅲ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2・後	120	4	○	△		○	○					
145			○ 財務諸表論基礎Ⅲ	会計基準の基礎を学ぶ	2・後	120	4	○	△		○	○					
146			○ 消費税法基礎Ⅱ	控除税額や納税義務の有無の判定を中心に処理方法を学習する	2・後	120	4	○	△		○	○					
147			○ 相続税法基礎Ⅱ	相続税、贈与税の基礎的な問題の理解	2・後	120	4	○	△		○	○					

148			○	法人税法基礎Ⅱ	欠損金の設定方法を中心とした法人税法の体系を学ぶ	2・後	120	4	○	△		○	○		
149			○	消費税法速習基礎Ⅱ	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供を中心とした処理方法を学習する	2・後	30	1	○			○	○		
150			○	簿記論基礎Ⅳ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2・後	30	1	○	△		○	○		
151			○	財務諸表論基礎Ⅳ	金融商品取引法の基礎を学ぶ	2・後	30	1	○	△		○	○		
152			○	消費税法基礎Ⅲ	課税標準や簡易課税制度を中心とした処理方法を学習する	2・後	30	1	○	△		○	○		
153			○	相続税法基礎Ⅲ	相続税、贈与税の基礎的な知識を網羅し文章問題を解答する	2・後	30	1	○	△		○	○		
154			○	法人税法基礎Ⅲ	組織再編税制を中心とした法人税法の体系を学ぶ	2・後	30	1	○	△		○	○		
155			○	消費税法速習応用Ⅱ	納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の特例を中心とした処理方法を学習する	2・後	60	2	○	△		○	○		
156			○	経理実務Ⅰ	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票書類についての知識を習得するための講義	2・後	60	2	○	△		○	○		
157			○	給与計算実務Ⅰ	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務を行うために必要な知識を習得する講義	2・後	30	1	○	△		○	○		
158			○	経理実務Ⅲ	経理実務に必要な消費税の基礎知識ならびに法人税の基礎知識、別表の作成手順を学ぶ	2・後	30	1	○	△		○	○		
159	○			一般教養Ⅱ	ビジネスで使用される基本的な熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ基礎編の位置付けで実施する	2・通	30	1	△	○		○	○		
160	○			ビジネス教養Ⅱ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う基礎編の位置付けで実施する	2・通	30	1	△	○		○	○		
161	○			キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	2・前	30	1	△	○		○	○		
162			○	Excel応用	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身につけるための演習	2・前	30	1	△	○		○	○		

163			○ キャリアデザインⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	2・前	30	1	△	○		○	○					
164			○ キャリアデザインⅢ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身につける為の学習	2・前	30	1	△	○		○	○					
165			○ 実務会計 基礎	財務諸表を理解し、会計の構造を学習する	2・前	120	4	△	○		○	○					
166			○ 実務会計 応用	決算書の構図を理解し、経営活動との関係性を学習する	2・前	30	1	○	△		○	○					
167			○ VBA基礎	Excelの操作に関する実践的な知識を身につける学習	2・前	60	2	○	△		○	○					
168			○ Power Point基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	2・後	60	2	○	△		○	○					
169			○ Power Point応用	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	2・後	30	1	△	○		○	○					
170			○ ネットビジネス応用	ネットショップ検定（レベル1）	2・前	60	2	○	△		○	○					
171			○ Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	2・前	60	2	○	△		○	○					
172			○ 英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	2・前	30	1	○	△		○	○					
173			○ 経営法務入門	日常生活や仕事に役立つ用語、事例学習	2・前	30	1	○	△		○	○					
174			○ 英会話 基礎	基本的な日常会話や場面別の簡単な英会話を事例をもとに学習する	2・前	30	1	○	△		○	○					
175			○ コミュニケーション実践	口頭練習と談話練習を重ね、実践的な会話を習得する	2・前	30	1	○	△		○	○					
176			○ パソコン実習Ⅰ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2・後	30	1	○	△		○	○					
177			○ ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する	2・後	60	2	○	△		○	○					

178		○	接遇ビジネスマナー	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする	2・後	30	1	○	△		○	○					
179		○	一般教養Ⅱ	ビジネスで使用される基本的な熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ基礎編の位置付けで実施する	2・通	30	1	△	○		○	○					
180		○	ビジネス教養Ⅱ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う基礎編の位置付けで実施する	2・通	30	1	○	△		○	○					
181		○	パソコン実習Ⅱ	Word、Excelを操作し簡単な文書の作成、表やグラフを用いてレイアウトや見栄えの調節を行うためのスキルを身につける実習	2・後	30	1	○	△		○	○					
182		○	パソコン実習Ⅲ	Word：長文を効率良く編集するためのスキルを習得する実習 Excel：目的に沿った編集を効率的に行うためのスキルを習得する実習	2・後	30	1	○	△		○	○					
183		○	パソコン実習Ⅳ	Word：応用的な機能を活用し、効率的に正確なビジネス文書を作成するスキル習得のための実習 Excel：複雑なデータ集計を行うことやマクロ機能を用い、より効率的に編集を行うスキル習得のための実習	2・後	30	1	△	○		○	○					
184		○	会計ソフト実習	会計ソフトを使って基礎的な入力処理を行い、試算表や決算書を作成するスキルを身につける実習	2・後	30	1	○	△		○	○					
185		○	事務職ビジネスマナー	ビジネス電話対応、接遇に関する実践的な学習をする	2・後	30	1	△	○		○	○					
186	○		経理実務Ⅱ	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票書類についての知識を習得するための講義	2・後	60	2	○	△		○	○	○				
187	○		給与計算実務Ⅱ	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務を行うために必要な知識を習得する講義	2・後	30	1	○	△		○	○	○				
188	○		財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度についての理解を深めるための講義	2・後	90	3	△	○		○	○					
189	○		販売仕入管理	販売、仕入に関する店舗運営上の管理業務に関する知識を習得する講義	2・後	30	1	○	△		○	○					
190	○		時事	現代社会における主要な時事の基本用語を理解し、自分の考えや意見を持つための学習	2・後	30	1	○	△		○	○					
191	○		文化リテラシーⅢ	日本文化を理解する(知る)	2・後	30	1	△	○		○	○					
192	○		マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2・後	30	1	△	○		○	○	○				

193		○	マーケティング基礎	事例研究を通じてマーケティングを演習する	2・後	60	2	△	○		○	○	○
194		○	販売職ビジネスマナー	接客に関する実践的な学習をする	2・後	90	3	△	○		○	○	
195		○	プレゼンテーション	企画から発表までの一連の流れ	2・後	30	1	△	○		○	○	
196		○	卒業研究	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	2・後	180	6	△	○		○	○	
197		○	ITキャリアデザインⅢ	採用試験に合格するための各種対策授業	2・前	60	2	○	△		○	○	
198		○	ITキャリアデザインⅣ	採用試験に合格するための各種対策授業	2・前	60	2	○	△		○	○	
199		○	ビジネスマナーⅠ	基本的なビジネスマナーについて学習する	2・前	30	1	○	△		○	○	
200		○	AI基礎プログラミング	Pythonにより最低限のライブラリで実装するAIシステムの実装	2・前	90	3	△	○		○	○	
201		○	IoTシステム基礎	IoTの仕組みを学び、PythonおよびIoT関連ライブラリを使用してIoTの基礎的実装を演習する	2・前	90	3	△	○		○	○	
202		○	クラウドコンピューティング	AWSを利用したクラウドコンピューティングの実装	2・前	90	3	△	○		○	○	
203		○	クラウドネイティブ開発	AWS Lambdaを使用したクラウドネイティブシステムの基礎を実習する	2・前	90	3	△	○		○	○	
204		○	卒業研究開発Ⅰ	システム開発における企画立案、ユースケース図の作成	2・後	90	3	△	○		○	○	
205		○	卒業研究開発Ⅱ	システム開発におけるロバストネス図の作成、シーケンス図の作成	2・後	90	3	△	○		○	○	
206		○	卒業研究開発Ⅲ	システム開発におけるシーケンス図の作成、ソースコードの作成	2・後	90	3	△	○		○	○	
207		○	卒業研究開発Ⅳ	システム開発におけるソースコードの作成	2・後	120	4	△	○		○	○	

208	○	卒業研究開発 V	システム開発におけるソースコードの作成、テストの実践	2・後	120	4	△	○	○	○	○
209	○	IT基礎知識 V	IT基礎知識の学習：テクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系	2・前	60	2	△	○	○	○	
210	○	Java	Javaの基本文法とオブジェクト指向プログラミング	2・後	120	4	△	○	○	○	
211	○	PHP	PHP基本文法とサーバサイドアプリケーションの設計と実装	2・後	90	3	△	○	○	○	
合計				211科目	単位時間(1,700時間 (62単位))						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(試験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定例試験のほか、まとめ試験や答案練習、中間試験及び授業内に行う効果測定、課題の提出等の平常点も加味して評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>2. 各授業科目の成績評価方法については別に定める。</p> <p>(学業成績)</p> <p>1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。</p> <p>2. 授業科目の成績は前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP (Grade-Point) を与える。</p> <p>(卒業)</p> <p>1. 規定する修業年限以上在学して、所定の授業時間数以上を履修し、かつ定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。</p>	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	24週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。